

南牧村立南牧中学校

生徒数：13名 学級数：3学級

1. 防災教育実践の趣旨・目的

学校安全アドバイザーを利用した防災教育・講演会を実施し、教職員や生徒の防災意識・知識を向上させるため。また、各関係機関と連携した防災体制の構築を目指すため。

2. 防災教育の具体的な取組内容

- (1) 防災アドバイザーを利用した避難訓練
- (2) 防災無線を活用した小中合同避難訓練
- (3) 防災アドバイザーを利用した講演会
- (4) 起震車・災害VR体験

3. 防災教育・避難訓練の実践

○従前の取組内容

年2回（6月と11月）、中学校のみでの避難訓練を行っていた。地震や火災、不審者対応をローテーションで行っていた。

○今回の防災教育の具体的内容

(1) 防災アドバイザーを利用した避難訓練

・概要

①教室で学活②地震発生③指導者指示④校内移動→校外移動⑤避難場所への集合⑥防災アドバイザーによる講話、ワークショップディスカッションの流れで行った。

・避難経路

3階1年教室・音楽室・相談室→3F廊下→階段→生徒玄関→校庭

2階3年教室→非常階段→校庭

2階2年教室・視聴覚室・職員室→2F廊下→階段→生徒玄関→校庭

・避難場所集合時の動作・対応

校庭中央にいる本部旗を持った学校長のもとに、校舎を背にして生徒が整列した。学年担当が人数確認をし、本部へ連絡した。

・事前指導

地震の初期対応として次のような事前指導を行った。

- ① 放送終了と同時に机の下に避難する。その際、机の脚をしっかりと握る。
- ② 近くに机等がない場合は持っている物を頭にのせる等、身を守る。
- ③ ガラスからは離れる。階段だったらしゃがむ。トイレにいたら素早く出る。



避難している様子

- ④ 窓を開ける。教室の出入り口の戸は開ける。
- ⑤ 校舎外では、上履きのまま集合場所に走る。

・事後指導

防災アドバイザーによる振り返りを全校で行った。釜石市の避難の紹介やワークショップディスカッションを行った。ワークショップディスカッションでは、場所（職員室前廊下、階段の踊り場、会議室、図書室）ごとに4班に分かれ、何が危険でどう対応すればよいか考えた。



防災アドバイザーによる振り返り

(2) 防災無線を活用した小中合同避難訓練

・概要

①事前指導(前日まで)②登校時間に地震が発生③小中合同で防災アドバイザーによる振り返りの流れで行った。

・事前指導

事前指導では、防災無線をよく聞き、その場で自分の身を守る行動をとる・その後どのように行動するか考えさせた。(1回目の放送は、揺れの最中にどのように身を守るか。2回目の放送は、身を守れたあとどのように行動するか)



登校時の避難の様子

・事後指導

防災アドバイザーによる振り返りを小中合同で行った。登校方法ごと（徒歩、バス等）の8班にわかれ、話し合いを行った。

(3) 防災アドバイザーを利用した講演会

小学校中学校合同で气象台の方を招いて教職員対象の講演会を行った。

(4) 起震車・災害 VR 体験

・概要

1・2年を対象に、起震車・災害 VR 体験を実施した。

・事前指導

大きな地震が起きた時に、室内で身を守るにはどうしたらよいか考えさせた。

・事後指導

体験して事前に考えたことを振り返りこれからの生活にどう活かすかを考えさせた。



合同の振り返り

4. 本実践の成果と課題について

成果

- 効果的な避難訓練の実施ができた。
- 防災に対する教員・生徒の意識が向上した。
- 専門的なアドバイスを受けることができた。

課題

- 系統的な安全教育計画への見直しや非通知避難訓練が実施できなかった。



起震車体験